

## 「県民と県議会との意見交換会」 **盛岡市会場** の概要

〔日 時〕 令和3年12月13日（月）13：00～15：07

〔場 所〕 盛岡地区合同庁舎 大会議室

〔テーマ〕 地方で働く魅力と新たな可能性について

〔参加者〕 （5名）

小 川 翔 大（合同会社k o e 代表社員）

兼 松 智恵子（A P T E C H株式会社 メディテック事業部市場開発担当）

佐 藤 貴 之（滝沢市地域おこし協力隊）

田 山 貴 紘（タヤマスタジオ株式会社 代表取締役）

若 江 俊 英（株式会社いわて若江農園 代表取締役）

〔出席議員〕（9名）

白澤勉議員（座長）、小西和子議員、軽石義則議員、千葉秀幸議員、千葉伝議員、

城内よしひこ議員、吉田敬子議員、佐々木努議員、木村幸弘議員

〔オブザーバー議員〕（2名）

武田哲議員、小林正信議員

### ◆ 参加者自己紹介及び現在の活動状況等について

#### ○小川さん

2年半程前に福岡県から紫波町に移住した。建築士ではあるが、現在の活動内容は設計の前の企画部分から、設計の後の建物がどう運用されていくのか、最初から最後までトータルでプロデュースして運用に携わっていくことを信条に、いろいろな活動をしている。

盛岡市動物公園の再開発では、唯一飼育のできない飼育スタッフとして入り、建築関係の管理をさせていただいている。また、現在住んでいる紫波町では、来年4月に国道4号線沿いの役場跡地に温浴施設をオープンする計画があり、運営責任者として開発に携わっている。地元で飲食店の開業も手掛けながら、例えば盛岡市の花屋のリノベーションのお手伝い、建築以外では、地元商店街の築100年以上経っている平井家国指定重要文化財の建物を使った地元を盛り上げる商店街のイベントなども企画運営をさせていただいた。そのような形でいろいろな街に入り込んで、個別開発や建設設計などさまざまな活動をしている。

#### ○兼松さん

岩手県に移住して2年程で、もともとは兵庫県神戸市の出身である。八幡平市が5年程前から行っているプログラミング教育を通じた起業家育成支援プログラムをきっかけに移住した。

もともとは大阪府で医師をしており、その時は急性期病院で働いていた。こちらに来て、地域の中で医療や福祉で、どういった課題が起きているのかということと初めて向き合った。八幡平市からすれば私は外から来た者ではあるが、臨床の経験から、ある程度は課題に対して、自分なりの解決策を持っていた。そこから、八幡平市の病院の先生や役場の商工観光課のスタッフ等と一緒に、八幡平市メディテックバレープロジェクトを立ち上げることになった。今は事業1年目で、主に安代地区内での活動のほか、他の周辺自治体からも話を聞く機会があり、どう解決したらいいのか一緒に考えている。この事業では、現場での医療とITを使った遠隔医療を行っているが、どう実装し、体制をつくるのか、また八幡平市内だけでなく、市外や県とどう組み合わせしていくのかということ、先生たちと一緒に検討しながら進めているところである。

## ○佐藤さん

滝沢市の地域おこし協力隊として活動している。盛岡市出身で、高校を卒業した後、ミュージシャンになるために東京に上京したが、道半ばにして挫折し、知り合いのミュージシャンのホームページをいくつも作っているうちに、ホームページを作る楽しさに目覚め、ホームページ制作会社であるデジタルマーケティング会社に約15年勤めた。盛岡市に戻り、滝沢市の会社で数年勤めたが、会社が岩手県から撤退することになり、再度上京することになった。その後、滝沢市と御縁があり、地域おこし協力隊という立場で戻って来ることができた。

滝沢市の地域おこし協力隊としての事業は大きく分けて二つ柱がある。一つは、岩手県立大学の向かいにある滝沢市 I P U イノベーションセンター及びパークの利活用や、地域を盛り上げていくという活動がある。初年度から S D G s のイベントの取り組みを行っており、早い段階から S D G s の認知を広げる活動を行っていた。また、各種技術者、専門職の方を呼んで、専門的な知識を滝沢市 I P U イノベーションセンターで働く皆さんに提供するようなイベントを行っている。

もう一つの柱として、滝沢市内の I T、I C T の利活用のお手伝い、主に市内の事業者に向けたホームページの活用である。もともとデジタルマーケティングやホームページ制作の畑にいたので、その知見を生かしたものを市内の事業者に提供したり、他には小学校向けのプログラミング教育のお手伝いなどを行っている。また、滝沢市が主催するデジタルマーケティングのセミナーでは、円滑な集客や集客拡大などができるよう支援している。

## ○田山さん

タヤマスタジオ株式会社の代表を務めており、南部鉄器を作っている。生まれは盛岡市、滝沢村で育ち、高校までは岩手県に住んでいた。大学から首都圏に出て、約6年半仕事をし、Uターンで戻ってきた。父親が南部鉄器の職人であり、天皇陛下御即位の際には、県と市町村会等から献上した鉄瓶の制作を父親が承り、あらためて感謝申し上げる。

また、震災から10年経ち、これからの10年をどうつくっていくかという観点で、起業家を100人育成するという目的で設立され、県もバックアップをしている岩手イノベーションベース第1期生として、今学ばせていただいている。

父親が南部鉄器の職人ではあるが、私は職人になる気はなく、東京で仕事をしていたが、東日本大震災を契機に2013年にUターンをした。東京では営業の販売の仕事をしていたので、伝統工芸と営業のノウハウを合わせ、南部鉄器は文化遺産というより資産として捉え、営業の観点から事業を行っている。父親に師事し職人として修行をした後、父親とは別の株式会社を作って経営をしており、例えば S K T という中国で一番大きい百貨店で弊社の鉄瓶を販売している。

産官学の連携では、岩手大学と A I の企業 L I G H T z (ライツ) という会社と共同で、南部鉄器職人の育成を A I でサポートする研究を行っている。また、宮城大学と V R を使って職人育成や教育を促進する共同研究を行っている。そういった伝統的なものをアップデートしていく試みの成果かどうかはわからないが、来年、盛岡第一高等学校出身の法政大学の卒業生が職人として入社することが決まっている。

一見衰退しているような産業だが、世界的に見るとマーケットがあり、チャレンジしていくと可能性が見えることが最近わかった。経済的な発展も見え始めているので、そういった観点で今日は意見をお伝えできればと思っている。

## ○若江さん

盛岡市内でトマトの生産販売を行っている。盛岡市生まれで旧都南村育ち、進学で仙台市に6年、その後、自動車メーカーにエンジニアとして神奈川県内で10年間勤めた。

ふと、岩手県に帰って、自分で何か事業をしたいと思い、実家は農家ではなかったため、農地も何

もなかったが、興味があった農業を勉強して岩手県に帰ってきた。それが13年前である。

自分は農業をやりたいと思って始めたため、毎日が楽しかった。やりたいことをやって、稼いで暮らしていけることが、すごく充実していた。しかし、ふと冷静に考えると、車を製造していた前職の仕事とトマトを育てる仕事では、給料が全然違った。農業が好きで楽しくてしょうがなかったからではあるが、年間360日以上、4,000時間程仕事をしていたと思う。前職では年間で120日程休めてボーナスもしっかりいただいていた。今は、たくさん働いても何とか食べていけるようなレベルで、このままだと誰も農業をやりたいと思わないのではないかと途中で思い始めた。

そこから、儲かる農業の仕組みづくりを意識するようになり、今は、規模感を持って行う、組織的に行う、技術を組織に残すということを意識しながら農業を行っている。それが少しずつ形になってきていると思うが、将来的には地域に横展開できるようにしたい。岩手県のものづくりのベースは農業だと思うので、農業で地域が盛り上がっていければいいと思いつつ、日々生産を行っている。

## ◆ 意見交換

### ○小西和子議員

皆さんのエネルギー溢れる話を聞くことができ、本当に良かったと思う。岩手県にゆかりがない小川さんと兼松さんの2人に伺いたいのだが、47都道府県の中から岩手県を選んでくれたのは、何が決定打になったのかをお聞きしたい。

#### 【回答：小川さん】

移住のきっかけは、前職の時に、地方のまちづくりを学ぶために通っていた大学院の講師だった紫波町の株式会社オガール代表の岡崎さんだった。岡崎さんの話や、別の方にお誘いをいただいたこともあり、紫波町に移住を決めた。

決め手になったのはそれ以外にもあり、今もそうだが、紫波町を紹介いただいた時に、住んでいる人たちの距離が非常に近いと感じたことだった。東京に住んでいたということもあるが、今まで隣人の顔を見たことは1回もなかった。また、ドラマの中の世界だけだと思っていた、隣人が急に来て飲み会が始まるとか、こんなこともあるのだなと思った。子供の面倒も見ていただくし、近所の人御好意で平日に車を使わせてもらっている。近所の人たちとの距離が近い環境が、子育て期にはいいのではないかと、妻と話して決めたというのも一つの理由である。

#### 【回答：兼松さん】

移住は、八幡平市のプログラミングキャンプがきっかけである。プログラミングキャンプは全国の至る所で行っているが、八幡平市は起業の支援まで行っている。また、岩手県の抱えている課題は、人口減少問題や過疎化であると思うが、課題が単なる課題ではなく、ビジネスにつなげることができるということを教えてもらった。課題から何かを起こしていくという、強い気持ちの人にはすごい場所ではないかと思う。

また、東京だと人口が23区で100万人を超えるが、八幡平市だと2万4、5千人であり、プロジェクトを進めていく時にも、顔が近く、いろいろな方に話を聞いて進めていきやすい環境ではないかと思う。

新しいプロジェクトのシンポジウムが今年10月に開催された後、来ていただいた葛巻町や二戸市を訪問したが、その時にもフランクに話を聞いてくださり、こんなに顔を近く突き合わせて進めていけるのは面白いと思った。そういったところも魅力ではないかと思う。

岩手県が持っている課題は、全国、ひいては世界が注目していると言われている。ここでつくったものをビジネスとして広げていけるような可能性があるのは、非常におもしろいと思う。

## ○千葉秀幸議員

さまざまな生き方、暮らしの上で、縁があってIターンやUターンで岩手県に来られたと話を伺った。小西議員に対する答えの中で、小川さんが岩手県民は距離感が近くていいという話をしていたが、以前、沿岸地域で開催した県民との意見交換会では、東京から来た地域おこし協力隊の方々から、実は距離が近すぎるから困っている、家にノックをしないで入ってくるという話があり、抵抗を感じている人もいる反面、こういった意見を聞いてほっとしたところである。

今、コロナ禍を契機に東京一極集中が見直され、地方の重要性などの議論が出てきている。その中で、一旦岩手県を離れた方が岩手県を見た視点、岩手県に縁もゆかりもなかった方が見た視点、岩手県の魅力や可能性をどう感じているのか伺いたい。

### 【回答：若江さん】

学生の頃は、ボーイング社などにあこがれ、エンジニアとして就職したかったため、岩手県から出たいと思っていた。

基本的に皆がやりたい仕事に就くことができればいいと思うが、岩手県は農業が基幹産業だと思うので、農業をやりたい人を取りこぼすのは、すごくもったいないと思う。県内の農業高校の生徒や農業大学の学生など農業を勉強した人が県外に出る話を聞くと、岩手県で農業をしないのかわからないのか、何がネックになっているのか。農業をやりたい人を取りこぼさないような、農業ができる環境、仕組みなどが必要だと思う。

### 【回答：田山さん】

私は東京からUターンして来て本当に良かったと思っている。6歳の息子と3歳の娘、そして妻が現在妊娠中で、3人の子どもに恵まれている。社内でも、3人子どもがいる社員と2人子どもがいる社員がいるので、弊社は人口減に対しては貢献しているのではないかと思う。子育ての観点でいうと、仕事の都合で東京に戻るようになった知人が、また東京に戻るのが嫌だと言っている。岩手県での生活は、野菜がおいしいとか、暮らしやすいということを書いており、私もいい場所だと実感している。

また、来年東京からUターンをして弊社の社員として働くことになった新卒の学生に話を聞くと、大量生産、大量消費といった今までの価値観に違和感があると言っている。大船渡市出身ということもあるが、SDGsやESGなど、さまざまな観点で世の中の変容が急速に進んでおり、そういった観点で、人間として生きる価値観を持っている若い人がふえている実感もある。

一方、働くということと言うと、働いて稼げるのか、当てがあるのかということだと思う。南部鉄器の仕事をしている観点で、例えば、他の工房を辞めて約4年前に弊社に入社した方がいて、職人歴15年程だが、前職の給料と比べると現在約160%になっている。休みも完全週休二日制と祝日休みがあるので、前職の8割の勤務時間になっており、概算すると約200%の給料となっている。父親の世代と比較すると、インターネットなどにより、東京を経由しなくてもお客さんと直接つながり、商売ができるという点が大きく変わっている。そういったところをうまく活用すると、斜陽産業の代表のようになっていた伝統工芸も、まだまだ飛躍できる可能性がある。県内の至るところに、伝統工芸が産業としてなくならずに残っているという点が、県内の大きな魅力であり、可能性は大きいと考えている。

### 【回答：佐藤さん】

私自身大きく変わったと感じていることは、新型コロナウイルス感染症の影響でリモートワークが普及したことだと思っている。滝沢市の地域おこし協力隊に着任した初年度はコロナ禍の前であったが、活動の一つの柱として、リモートワークの普及も掲げていた。私自身、東京から岩手県に戻って、また東京に行って、再度地域おこし協力隊として岩手県に帰って来るといったキャリアを歩んだわけだ

が、これは所属している会社が岩手県から撤退し、東京に転勤になったためであった。その時にリモートワークができていれば、岩手県にとどまって仕事を続けることができていたのではないかと感じ、地域おこし協力隊の初年度から、リモートワークの普及に取り組んでいた。皮肉なもので、新型コロナウイルス感染症で一気にリモートワークが広がり、働き方は随分変わったように思う。

地方に住んで東京の仕事など、さまざまな地域の仕事をするようになってはきているが、そうすると、移住先を決定する際に、岩手県を選ぶか選ばないかという話になる。現状は東京から近隣の地方都市に移住する方々が多くなっていることから、岩手県が選ばれる地域でなければいけないと考える。リモートワークという、どこでも仕事ができる環境になったからこそ、岩手県が他の地域に比べて働きやすいということをいろいろな方々にどんどんアピールをして、さまざまな地域の仕事ができるような形をとっていければいいのではないかと考えている。

#### 〔回答：兼松さん〕

先ほど八幡平市を選んだと言ったが、八幡平市のほか、北海道などでも同じ取組みをしており、どちらに参加しようか迷ったが、結果、一番おもしろそうだという理由で八幡平市を選んだ。

医療については、医師不足など給料を上げてでもなかなか医師が来ないという課題が挙がると思う。生活の利便性がいいということも魅力だが、新しいことができて、チャレンジができる、おもしろいということも大きな魅力に挙げられるのではないかと考えている。

#### 〔回答：小川さん〕

先ほど子育ての話を見せていただいたが、人の距離が近いということがメリットということは、働く部分でも十分に感じている。私は名刺の数だけで所属会社が四つあり、一つの会社にとどまらず、いろいろな会社で活動をしている。まちづくりという観点で、この場所でこういうことができたらい、こういうものがあつたらいい、こういうものが欲しいという話を、声を大にして挙げていくと、同じ思いを持った人が集まり、だったら一緒にやろうよ、だったらこういうやり方でできるよねという話になり、気が付けば新しい会社を設立して一緒に走っていた。岩手県はチームを作りやすい環境にあると感じている。そのスピード感やチームのつくりやすさが、人が近いという岩手県の魅力につながっている。紫波町に移住して、合同会社k o eという会社を設立し、基本的にはこの会社1本でやっていくつもりだったが、まさかたった2年で所属の会社が四つになるとは思い描いてもいなかった。働いてみたら、むしろその方が働きやすく、また調整しやすいため、自分自身もわかりやすく、整理しやすい。

これも地方の働き方の一つと言えるし、こういう働き方は浸透しても、なかなかやっている人が少ないと思う反面、この先コロナ禍を踏まえ働き方が変わってくる中で、一つのことにとらわれず、さまざまな挑戦ができるステージを十分すぎるくらい与えられる地域ではないかと思っている。私としては、こういう働き方が、むしろ今後ベースになってくるという気持ちで働いている。

#### ○吉田敬子議員

皆さんの話を聞いて、岩手県に戻ろうと思った時に、一番にあるのは仕事で、その後、又は並列かもしれないが、子育てしやすい環境が大事だと思った。その中で、U・Iターンを一番しやすいのが単身の時かと思うが、その時に子育て環境は優先順位として高いのか。周産期の話もあったが、U・Iターンする際に、そういったところまで見ているのか。人口減少対策の中で、子育て世代の若い女性がどうしたら岩手県に来ていただけるか伺いたい。

### 〔回答：兼松さん〕

皆が私と同じような考えなのかはわからないが、子育てしやすいことは大事だが、子育ての前に生きていかなければならない。私は、自分がやりたいことをやって生きていきたいということが一番あるので、移住の時に子育てまで全部考えているかということについては、少なくとも私は考えなかった。

先ほど周産期、小児の話があったが、確かに岩手県や北海道は場所によっては、周産期医療体制が十分ではない。そういう所はどうしているかというと、しかるべき時になったら病院の近くに住む、地域間で連携を行うなど対策を行っているのである。例えば、沿岸で分娩を閉鎖した病院もあったが、だから子育てができないというわけではない。また、子育て世代は相談したいニーズが他の世代よりも強い傾向にあるが、オンラインで相談を受けるといった民間のサービスが、コロナ禍で発展してきている。そういったサービスを活用し、妊婦や母親の不安を解決する事業をすでに始めている自治体もかなりある。

医療にしても、インフラは整備にも維持にもお金もかかり力が必要であることから、ある程度オンラインや情報提供によって補完していくという考え方も大事である。そういうことは、岩手県だからこそ出てくるようなアイディアではないか。都市圏では出ない考えだと思う。

### 〔回答：若江さん〕

単身の方が動きやすいということはあると思うが、私の場合は、仕事で神奈川県にいた時に妻と出会い、結婚と同時に戻ってきた。妻は、農業をしたことがないし、岩手県とゆかりもない中で一緒に来てくれた。あまり明確な条件は言われなかったが、小川さんのところとは違って、朝7時ぐらいからピンポンと鳴らされたり、鍵をかけているのにドアをガチャガチャとされるのは嫌で、そういうことができなければいけないとか、コンビニが近くにあればいいとか、子育て環境がいい地域がいいと思っていた。自分は農地を探すところからスタートし、農地が見つかる場所は便が悪いところが多かったが、妻がいいよと言ってくれる場所が見つかった。自分は良くとも、女性視点だと、利便性がよく、子育てしやすい環境は少ないと思った。

### 〔回答：田山さん〕

私の経験を話すと、妻も私も盛岡市出身で、私は東京、妻は盛岡市で仕事をしていて、結婚を機に妻を東京に連れて来た。私の仕事の都合に合わせて動いており、私のUターンのタイミングで盛岡市に帰って来ているので、仕事、特に旦那さんの仕事の優先順位が高いという状況は、多分、社会的に多いのではないと思う。

社員の経験で言うと、中の橋通りにengawa（えんがわ）という喫茶店を経営しているが、店長は仙台市出身の男性で、仙台市で飲食店を経営していたが、辞めてこちらで働いている。奥さんが滝沢市出身で、お子さんが2歳ぐらいのタイミングで、仙台市よりも盛岡市の方が暮らしやすく、文化度が高くっていいという理由で移住を決めて働いているので、そのケースも旦那さんの仕事の都合である。ただ奥さんは建築士なので、あまり場所を選ばず仕事ができるということもある。私の場合も、妻が看護師なので、あまり場所を選ばない。

北海道ニセコ町から移住してきた仙台市出身の女性社員もいるが、30代で単身なので、ライフステージの中で動きやすいタイミングで決断しているという感覚があると思う。やはり単身の時、旦那さんの動き、あとは小学校に入る前ぐらいのタイミングが動くキーポイントだと思う。

## ○千葉伝議員

今後、自分のやりたいことを進めていくうえで、人や地域、あるいは組織などにいろいろ相談しながら進めていかなければならない場面も多々あると思うが、その部分についてどのように考えている

か。また、行政に対しての要望を伺いたい。

**〔回答：小川さん〕**

紫波町の事例でお話すると、最初は温泉施設をつくろうとは思っておらず、子ども向けのコンテンツを考えており、事業コンセプトとしては、健康や、子どもも含めて成長するにあたり、幸せで豊かな生活を送るためには、その場所で何をしたらいいのかという想いが根幹にあった。紫波町の公募に応募しようと思っていることをいろいろな人に話していく中で、住民の幸せを願った健康に寄与した事業をやりたいと思っていた人たちが集まってきた。組織を作ってからというよりは、根幹の想いに共感してくれる人が集まり、生まれた組織であるため、非常に運用しやすい組織が生まれている実感がある。

意見が対立した場合でも、根幹の想いは変わっていないため、私たちの共通の想いに対して、手段はこれで合っているのかという議論しか生まれないため、対立しても必ず元に戻ることができる。

また、共感という部分が私たちだけになってしまうと自己満足になってしまうため、私たちの想いを、町民や県民に共感してもらえるように、さらにどんな活動しようかという新しい共通の目的として、みんな同じ方向を向いて活動できている。

何のために行っているのかという軸は絶対にぶらさずに活動し続けていることで、共通の想いを持った組織が、結果としてできているというような形である。

**〔回答：兼松さん〕**

組織ありきではなく、ビジョンありきというところは、私も大事なところだと思う。

八幡平市のプロジェクトに関して、元々構想ができたのは2、3年前で、その時弊社は、小さいベンチャー企業で、岩手県や八幡平市につてがあるわけでもなかったが、八幡平市商工観光課の係長がいろいろなところへつなげてくれた。

また、このプロジェクトを進めるにあたり、一番大きな出会いは岩手県立中央病院の前院長である望月先生だが、ビジョンをいろいろな人と共有していく中で偶然つながった出会いだった。

議員の方は、議員である前に地域でいろいろなことを頑張っているしやるので、周りには、志が高く、一緒にやっていくときに力になってくれるような人がたくさんいると思う。そこで、共感するビジョンを持っているが、自分ではそういった仲間が見つけれられないような人がいたら、議員の方がぜひ周りに広げて、仲間を見つけるのを手伝ってほしいと思う。

仲間がふえると、ビジョンがだんだん紙に落ちて企画になる。自治体をまたぎ、つなぐ力を持っているのが県の議員だと思うので、そういったところを協力いただけると、小さい会社や、移住者のように、つてがない人にとっては非常に助かる。

**〔回答：若江さん〕**

農業を営んでいる仲間はたくさんいるが、前向きにやっている仲間はそんなに多くないと感じている。世の中の変化に追従して、企業活動を変化していかなければならないと思うが、今のままでいいし、リスクを取りたくないという農家は結構おり、それでは何も変わらないのではないかと常々思っている。他で就職したことがないとか、家から出たことがないということであれば、学ぶ場がないのではということも考えたが、いわてアグリフロンティアスクールなどの県単位の勉強会は開催されており、学びの場はあるが参加する人は多くないという印象がある。企業経営は、世の中の変化と共に変わっていかなければいけないところにスイッチが入らないのが問題だと思う。

また、組織としての販売について、私は研修先の地域の人達と生産者グループをつくり販売しているが、最初は研修先の仲間に入るつもりはあまりなかった。組織で販売する場合、企業やスーパーと契約するとなると、事前に量を決めなければいけないなどの難しさがあり、農業一年生の頃は、組織

に入りたくないと思った時期もあったが、グループが高齢化しているということもあり、仲間に入ることになった。結果、組織に入ってよかったと今は思っており、やはり個人でできないことが組織だとできるということは実感していて、組織の大切さは身をもって感じている。

### ○軽石義則議員

岩手県には、いいものがいっぱいあると言われているが、何が一番いいのかと聞かれると、なかなか言いづらく、みんないいと答えてしまう。そこで、外から岩手県を見た時に、岩手県の一番の売りにするべきものを伺いたい。

また、関西から見ると、岩手県はどこにあるか分からないという声も聞くが、岩手県のイメージアップや定住移住につながっていくやり方などアイデアがあれば伺いたい。

最後に、皆さんから見た県議会議員はどの位置にあるのか教えていただきたい。

#### 【回答：田山さん】

一つ間違いなく言えることは、震災によって、生きるということを身近に感じている人間がたくさんいるということが、他県との違いだと思っている。私も震災がきっかけでUターンもしているし、特に沿岸の方たちは身を持って感じていて、そういう想いを持って活動している絶対数が多いことが、価値だと思う。

また、一番いいというものが明確ではないということは、逆に言うと、我々が他と違う県というものを、どうつくっていくのかというチャレンジをしていくことが、一つの答えではないかと思う。

議会や政治と、我々の位置はすごく遠いと感じていて、それは私自身の勉強不足が大きいところではあるが、日常では、会社のことを考えることで精一杯で、もう少し大きい枠組みの中で、しっかりと取り組んでいくことができていないため、そういう視点に立った時に議員の方にお問い合わせすることがたくさん出てくるのだろうと思っている。

#### 【回答：佐藤さん】

岩手県にはいいものが多いということは、本当にその通りだと思うが、他県でもおいしいものも多く、いいところもすごく多い。東京にいろいろな地域を見て知ったことだが、日本はどこに行っても、食べ物がおいしく、自然がきれいで本当にいい国だと思う。そのような中で、岩手県出身だから言えることは、岩手県の自然や風景など、幼少期から培ってきた、岩手県で育ってきたからこそ、岩手県がいいと思えるのだと思う。岩手県出身者や岩手県に何らかの理由で関わってくださる方、物というよりは、岩手県に少しでも携わるきっかけがあった方をターゲットに発信していくことがいいのではないかと思う。

また、東京に住んでいると、岩手県の情報は探さないと手に入らないため、首都圏や他の地域の人たちに、岩手県という存在を知ってもらい取り組みは必要と思っている。

県議会に関しては、田山さんと同様、あまり深くはわかっていないが、知っていくことは必要だと感じていることから、若者が情報を入手しやすくする仕組みづくりや、広報紙をいろいろな媒体で出していくなど、工夫をすることで、より身近な存在になっていくのではないかと思う。

#### 【回答：小川さん】

岩手県には縁もゆかりもなく、移住とともに盛岡に来たのは初めてで、率直な感想を述べると、今まで食べた冷麺の中で、盛岡冷麺がダントツでおいしかった。

もう一つ、純粹に魅力と感じていることがあり、お酒という分野において、日本にはどこに行ってもおいしいお酒がたくさんあるが、紫波町の地元の方と食事をする際に、紫波町のワインが好きで、そこからいろいろなお酒を知って、他の地域のおいしいお酒を勧めてくれることがあった。地元のお

酒がおいしいということだけでなく、地元のお酒を通じて得た知識が豊富な人が多いと感じている。お酒を通じて、地元を知っているからこそ他県を知っている、自国を知っているからこそ他国を知っているような方が非常に多いということが、実はこの地域の魅力なのではないかと思っている。

### ○木村幸弘議員

岩手県で若者対策や移住定住対策を進める上で、自分が望む働く場が少ないことや都市圏に比べ賃金が低いなどの労働条件に関する課題があるが、岩手県に来て仕事をしている皆さんは率直にどう感じているのか伺いたい。

また、皆さんが取り組んでいる姿や状況を、地元の友人や同業者などにどのように情報発信しているか伺いたい。

#### 〔回答：若江さん〕

農業の話で言うと、雰囲気が悪いと感じている。視察で南の方に行った時に、そこでは儲かるから設備投資をするという感じだが、岩手県では私がハウスなどをたくさん建てていると、業者に騙されて馬鹿だなど言われたりする。岩手県にはそういう雰囲気がある。若い学生は、儲かるから設備投資をするという会社と、そうではない地域の会社とどちらに行きたいかとなったら、儲かるから設備投資をする会社で働きたいと思うのが普通だと思うので、岩手県の雰囲気をよくしていきたいと思う。

#### 〔回答：兼松さん〕

医療の範囲に絞ると、コロナ禍ということもあり、オンライン診療に光が当たり、過疎地の課題解決につながっている。ITを活用しながら解決していくことから、何か面白い、新しいことをやっているということで注目度が高まっていると感じる。

八幡平市の事業は、始めてから半年が経ち、実績が少しずつ出始めたところで、それをどんどん発信しようとしているところで、実績以外でも岩手県をこれからどうしていこうという提案や、このベンチャー企業は新しいものを作っていけるおもしろさがあるということ伝えたい。以前と比べて、給料は下がったが、その分おもしろい経験をさせていただいているし、スタッフや地元の地域おこし協力隊がこの事業に興味を持ち始め、だんだん仲間がふえてきた。

地元への情報発信については、関西でも岩手県と同様の課題があるため、そこに提案していく形だと思っている。

### ○佐々木努議員

地方によっては、これから人材確保が大変になってくると言われているが、今後の人材確保についての考えを伺いたい。

#### 〔回答：田山さん〕

具体的に行っていることでは、副業人材の活用といった仕組みを提供しているNPOがあり、一流企業で、人事や働く人たちのモチベーションアップに取り組んでいるノウハウがある岩手県出身の方で、現在育休中の女性社員の方と人材確保に向けての情報発信をしようとしている。

先ほどもビジョンの話があったと思うが、我々がどういう未来をつくっていこうとしているか、それが今後、我々の生活に対してどういうよさがあるのかということを描けていると、選択肢の中に入ってくると思う。今回、当社に来ることになった方も、そのような観点で当社を選んでくださっている。世の中が不安定で、将来がどうなるか分からない不安感が社会にまん延していることから、自分の未来がどうなるかということ発信していくことが大事だと思う。

**〔回答：若江さん〕**

県内においてもさまざまだが、自分のところでは比較的労働条件は恵まれていると思う。農業のいいところは、働き方が多様にできるところだと思っており、その軸で労働力確保はしていかなければならないと思うが、県内を広く見ると人は足りないの、遅かれ早かれ、機械化も考えなければならぬと思う。そうなる、ある程度の規模感が必要になるため、経営の大きさというところも変わるのではないかと思っている。

**○佐々木努議員**

今、御自分が取り組んでいることでも、それ以外でも構わないが、10年後、どのような状況になっていると思うか、また、どのようになっていたいかお聞きしたい。

**〔回答：佐藤さん〕**

今は滝沢市の地域おこし協力隊ということで、滝沢市の方々向けの事業を行っているが、県内の事業者にもっと儲かってもらいたいということ、ずっと私の中で意識として持っている。

震災がきっかけで岩手県へのUターンを決めて、岩手県のために何かしたいという大きな思いがあったが、その当時は20代後半くらいで、正直本当に何もない自分だったが、東京でいろいろなスキルや経験を積んだことで、やっと岩手県の人達のために働くことができるようになったと思っている。そのような当時の思いを忘れずに、県民や県の事業者の方に、自分のスキルを通じて還元していきたいと考えている。

**〔回答：兼松さん〕**

八幡平市メディテックバレープロジェクトの名称は、私たちが課題を解決するだけでなく、それが持続可能になり、かつ、それを盛り上げていくために必要な人材や企業を連れて来る、そんなシリコンバレーのような場所になってほしいという意味を込めて名付けた。

10年後は、日本全体の人口減少はもっと進んでいると思う。問題になるのは人口減少によって起こる課題である。人口がふえなかったとしても、みんなが自分の生きがいを持って、安心して暮らしていけるような仕組みづくりが県全体でできていて、モデル地区のようになっていてほしいと思う。

**〔回答：小川さん〕**

紫波町の事業の中で建築を起点にトータルプロデュースを初めて行うのだが、10年後はそこを起点に、新しいビジネスや建築のあり方を確立させ、私自身は岩手県に居ながらも、同じ思いを持つさまざまな人とかかわりを持ち、全ての都道府県でコンテンツ開発ができるネットワークをつくり上げ、全国で活躍できる会社を岩手県中心に発信していきたい。

**〔回答：若江さん〕**

今まではずっと教わってばかりだったため、自分の経験を踏まえて、教育というところで恩返しができるようにしたい。

**〔回答：田山さん〕**

盛岡市中央公園の整備事業について、弊社を含め三社で受託し、自然の中に商業施設があって、豊かな暮らしを体現する公園整備を進めている。

盛岡市を中心に、岩手県は文化の度合いが高いと感じているため、この文化をしっかりと守りつつ、物だけではなく体験などを資源として世界に輸出し、世界中の人とつながる仕組みをテクノロジーを使って効率化させ、文化で外貨を得るといったことを、実現できていると楽しそうだと思っている。

## ○城内よしひこ議員

震災から10年が経過し、沿岸に生きる者として、何とかして沿岸を元気にしたいと思っている。道路網も整備されたことも含めて、今後どうしたら岩手県沿岸が元気になるか御示唆願いたい。

### 〔回答：佐藤さん〕

地域おこし協力隊目線での話になるが、沿岸地域の協力隊の方と意見交換をさせていただく機会があり、地域をよくしたい、地域を活性化したいという想いは確実に協力隊員の中に存在していると感じる。そのような方たちが、沿岸の活動を盛り上げていっていることを、私自身目の当たりにしていて、さまざまな協力隊員が手を取り合って、沿岸や岩手県をよくしているというのは間違いなくある。そういった方たちも含めて、特定の自治体や沿岸地域のみ頑張るのではなく、県全体、オール岩手で盛り上げていくムードや機運をもっと出して、よい循環を県全体で生み出していくことが、沿岸地域の活性化になるのではないかと思う。

### 〔回答：若江さん〕

盛岡市が実家ということもあり、盛岡でトマト生産をしているが、沿岸南部は日光が多く、トマト生産にはすごく魅力的な土地なので、いつか沿岸でやりたいと思っている。

沿岸南部だけの話になってしまうが、沿岸南部は施設園芸としては条件がよいが、震災以降、うまくいっていない会社もあると思っている。県内の事例を見ると、施設を作って、誰かがやっってくださいという形でスタートすると、なかなかうまくいかないと感じている。そもそも、経営力や運営の仕方がわかっていないと、どんな施設を建ててもうまくいかない、いろいろな話を聞いて思うところがある。

### 〔回答：田山さん〕

私の立場から言うと、盛岡でしっかり経営をして、例えば、海外から人を連れてきて、そこから沿岸へ行っていただくような仕組みを作るなど、観光面での事業展開をしていくことが一つあると思う。

教育やインフラなどさまざまな問題は、予算の関係もあり難しいと思うが、解決するポイントの一つとして、ICTの活用は必須だと考えている。教育の格差や空間の差を是正するには、テクノロジーの活用が一つのキーになると思う。

### 〔回答：兼松さん〕

医療の面から見ると、広大な岩手県において、岩手の人たちは、本当に頑張り屋だと思う。しかし、頑張るということは同時にリミットが必ずやってくるということなので、できる限りICTの活用を取り入れて、前向きに考えていければと思う。

医療にオンラインを取り入れる時は、セキュリティーやネットワーク、ITリテラシーが必要になる。医療側、患者側、行政側の三つのリテラシーが揃って、それを率いていく人間がいなくてうまくいかない、その人材を一緒に育てるということ、県としても考えていけたらいいと思う。

### 〔回答：小川さん〕

福岡市に住んでいるときに、年中ホテル不足で悩んでいるという話を福岡市からいただき、豪華客船を港に泊めて、その間、ホテル代わりにするという提案をしたが、さまざまな法的問題が解決できず、実らなかったことがあった。海の上を活用できる制度が少ないという印象があるが、盛岡市では陸地を活用し、民間が活躍できる場を作っている実績があることから、沿岸地区に関しては海の上で、民間が活躍できる新しい制度の構築が十分できると思う。そして、海の上が、稼げる土地という形で

見方が変わると、いろいろなことをやってみてみたい方たちがたくさん集まってくるのではないかと思っている。

## ◆ 感想

### ○小川さん

議会と聞くと、私自身のイメージとして、重い雰囲気があったが、まさか、こんなになごやかな雰囲気で見聞交換させていただけるとは思っていなかった。妻に、議会に行ってくると言ったら、一体何をしに行くのか聞かれたので、こんなに有意義な話ができたと報告したいと思う。

### ○兼松さん

私はこれからも今の会社で働いていくので、同時に岩手県で年を重ねていくことになる。年を重ねていくといろいろな課題が見えてくると思う。これからも新しいことをしたいとき、力を貸してほしいとき、いろいろ相談に乗っていただけたらと思う。

### ○佐藤さん

非常に勉強になり、改めて自分の活動を見直すことができ、いろいろな発見があった。

次の10年に向かって、自分の活動を含めて、県民の皆さんやさまざまな方々と手を取り合っていきたいと思う。

### ○田山さん

いろいろな意見を聞いていただけて嬉しかった。今度は、私自身が県の政治のことをしっかり勉強して、いろいろな交流をしたり、周りの人にも興味を持ってもらえるようにしたりすることができれば、県もよりよくなっていくと思う。

### ○若江さん

このように声を拾っていただいて、ありがとうございますという気持ちでいっぱいになった。いろいろ言ったが、後は結果を出していきたいと思うので、応援していただければと思う。

### ○臼澤勉座長

今回のテーマである、「地方で働く魅力と新たな可能性が、岩手県にあるのか」という問題意識について、皆さまの御意見、発表を聞いて、岩手県はまだまだいけるということを確認した。地方は東京に比べて不便だという価値観は捨てた方がいい。生きやすさや暮らしやすさが、東京より岩手の方にあるのだということを、我々は再度認識しなければならない。

花巻東高校の佐々木監督が高校時代の菅選手に送った言葉で、「先入観は可能を不可能にする」という言葉がある。地方は東京に比べて劣っているという先入観を引きずっていると、せっかくできる可能性、魅力を高める、あるいは地方で暮らす可能性をつぶしているということを、新たに確認させていただいた。

今回の意見交換会をきっかけにして、我々議員を身近に使ってほしいし、使うべきだと思う。我々自身も待ちの姿勢ではなく、皆様のところへ踏み込んでいって、お話を聞かせていただきたい。

本日いただいたさまざまな御意見は、今度の2月県議会も含め、今後の県政につなげていく。今後とも県議会の方も、ぜひ御理解いただければと思う。

お忙しいところ御参加いただいたことに感謝を申し上げ、意見交換会を閉会する。